

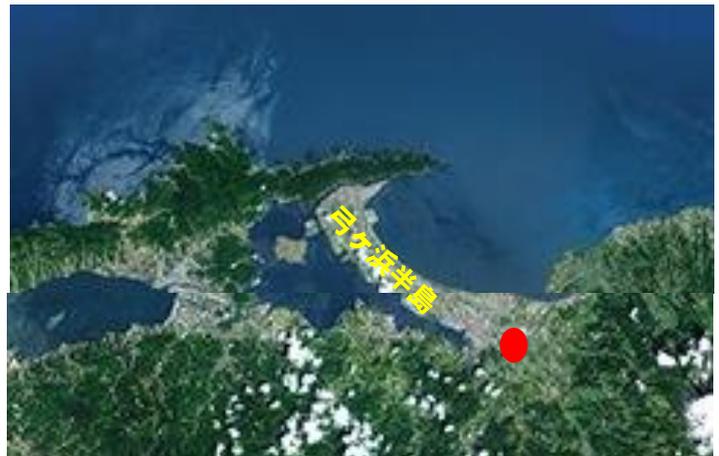
豊かな水資源

豊富な地下水

車尾地区は、鳥取県西部の一級河川日野川と法勝寺川の合流部に位置します。そして合流部の左岸に広がる車尾地区は、豊富な地下水脈の上にあり古くから水の恵みを受けてきた地域です。古代よりたたら製鉄の原料となる良質の砂鉄を産出する中国山地は、たたら製鉄の一大生産地で、砂鉄は「かな流し」と呼ばれる手法で山砂を水路に流し、軽い砂を下流に流して採取します。大量の山砂は、水路から日野川や法勝寺川へ、そして河口から海流に乗って堆積して出来た夜見島という砂洲が徐々に形成されました。こうして夜見島は段々と太くなり、ついには地続きとなり、現在の弓ヶ浜半島が形成されました。当地区はこの半島の付け根にも位置しています。



日野川と法勝寺川の合流部



弓ヶ浜半島の付け根に位置

美味しい水道水

米子市の水道は、車尾地区の日野川堤内の伏流水を水源として水道布設を行い、大正15年（1926年）4月から一般給水を開始しました。その後、給水区域の拡大や生活水準の向上、産業の発展に伴い、水需要は年々増加しました。その都度、水源を増設していきました。現在は米子市・境港市・日吉津村の2市1村を給水区域として、約19万人に給水しています。



点在する円形ドーム型の水源地

飲料水として売られています。



農業用水

弓浜半島には自然の川がなく、十分な灌漑（農地に水を引くこと）用水が確保できなかったことから、農民を苦しめる原因となっていました。元禄 13（1700）年、鳥取藩主池田綱清は、弓浜半島の農業開発を進めるためには、そこに灌漑用水を引くことが重要であるとする米村所平広次の考えをとりあげ、水路の建設を命じました。広次は、日野川に堰を造って水を引くこととし、**取水口を車尾地区の戸上**としました。工事は、硬い岩の掘削で困難を極めた戸上山麓の取水口工事に始まり、それから実に 60 年の歳月を費やして、境水道まで約 20 km の立派な農業用水路が完成しました。この新しい川は、米村所平広次の功績をたたえ、「米川（よねがわ）」と命名されました。米川の完成により、それまでサツマイモがほとんどであった弓浜半島の農業は、水稲や綿などの栽培が盛んになりました。現在の米川は約 5,900 戸の農家から成る「米川土地改良区」によって維持管理され、米子市、境港市のおおよそ 2,000ha の田畑を灌漑しています。



車尾地区戸上の米川取水口



ツツジと米川



あじさいと米川



米川用水でネギの栽培